

2024年(令和6年)12月18日(水曜日)



3者は幅広い分野でソリューション提供を目指す

次世代センサ協議会、ペイクル、UPCX-Platforms提携

ブロックチェーン技術活用

安全で効率的なデータ管理・分析実現

次世代センサ協議会、ペイクル、UPCX-Platformsはブロックチェーン(分散型台帳)技術を用いた安全で効率的なデータ管理と分析のために業務提携を結んだ。各センサーを組み込んだ計測システムにブロックチェーンを活用して幅広い分野でのソリューション提供を目指す。

次世代センサ協議会、社会実装のために、次世代センサー技術の標準化や新たな応用分野の開拓を進めている。同協議会内のUPCXコンソーシアムでは、各センサーを組み合わせた複合計測システムの社会実装を目指している。UPCXは、ペイクルが開発するブロックチェーン技術を活用

センサー数の増加を踏まえ、膨大なデータ管理にUPCXの高速で大量のデータが処理できるブロックチェーン技術を活用する。データの高速・大量処理に加え、セキュリティ性もポイント。サーバーを用いたデータ管理の仕組みではハッキングのリスクがつきまとう。不特定多数のプレーヤーが参加する中で信用を担保するのはブロックチェーン技術の特徴。計測システムのデータ管理にブロックチェーン技術を選択した。

ペイクルの村上昌史代表取締役は「研究開発で終わらず、マネタイズできるビジネスモデルを構築する。全体がウィンウィン(相互利益)になるような形で取り組みたい」と抱負を述べる。

次世代センサ協議会の小林彬会長(SUCSコンソーシアム代表)は「センシング技術は製造業を中心に使われてきた。今後は未開拓分野にセンシング技術を提供していく。そのために大事なのは客観的なデータ提供・保存・利用・収集すること。改ざんされずにデータを管理していくことは重要」と、提携の狙いを説明する。UPCX-Platformsは、11月には、SUCSとUPCXは新しい技術の開発を進めている。新プロジェクトでは、IoTでつながる技術の開発を進めている。新プロジェクトでは2025年度内にプロトタイプを開発する方針だ。